



平成26年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月10日

上場会社名 株式会社ジェイグループホールディングス
 コード番号 3063 URL <http://www.igroup.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年1月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 新田 二郎
 (氏名) 赤工 朝飛

TEL 052-243-0026

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第3四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第3四半期	8,392	15.4	△121	—	△81	—	△75	—
25年2月期第3四半期	7,269	3.8	△20	—	△24	—	△22	—

(注) 包括利益 26年2月期第3四半期 △86百万円 (—%) 25年2月期第3四半期 △22百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第3四半期	△10.17	—
25年2月期第3四半期	△3.52	—

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期第3四半期	8,346	2,103	25.2	263.00
25年2月期	6,947	1,626	23.4	249.79

(参考) 自己資本 26年2月期第3四半期 2,103百万円 25年2月期 1,626百万円

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、1株当たり純資産につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	0.00	—	500.00	500.00
26年2月期	—	500.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	2.50	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しております。平成25年2月期及び平成26年2月期第2四半期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	10.4	160	133.7	160	143.2	40	61.6	5.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年2月期3Q	8,196,400 株	25年2月期	6,710,800 株
② 期末自己株式数	26年2月期3Q	200,000 株	25年2月期	200,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年2月期3Q	7,419,236 株	25年2月期3Q	6,410,800 株

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等が様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融政策の効果や経済政策への期待感から円高是正、株価回復が進み、景気回復への明るい兆しが見られるようになってまいりました。一方で、原材料価格の上昇や電気料金の値上げ、消費税増税による個人消費低迷への懸念など、先行きは不透明な状況で推移しております。

外食業界におきましては、景気回復による所得増加への期待感や法人需要の拡大が期待される中で、消費マインドも改善が進んでおり、需要回復が感じられる状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループでは、中長期的な出店計画の達成を目指し、新規出店に注力するとともに、主力業態である芋蔵のメニューの見直しなど、既存店売上高の向上に注力いたしました。また、「猿Cafe(サルカフェ)」を運営する株式会社SARUを連結子会社化いたしました。これらにより、新規出店が12店舗、株式会社SARUの連結子会社化による店舗取得がフランチャイズ店舗を含め10店舗、リニューアルオープン5店舗、閉店3店舗となり、平成25年11月末日現在の業態数及び店舗数は、46業態110店舗(国内109店舗、海外1店舗)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,392百万円(前年同期比15.4%増)と増収となりましたが、新規出店等の成長投資の過程で、人件費や広告宣伝費、新規出店に伴う消耗品等の初期投資費用が増加し、営業損失は121百万円(前年同期は営業損失20百万円)、経常損失は81百万円(前年同期は経常損失24百万円)、四半期純損失は75百万円(前年同期は四半期純損失22百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

新規出店に注力するとともに、既存店のリニューアルオープンやメニューの充実など、既存店売上高の向上に注力いたしました。また、「猿Cafe」を運営する株式会社SARUを連結子会社化いたしました。

新規出店におきましては、平成25年5月に、日本橋エリアの再開発の一環として、地元の素材を活かし生産者と消費者をつなぐことをコンセプトに、定期的なイベントを開催するなどの文化情報発信型飲食店「豊年萬福(ホウネンマンブク)」(東京都中央区)をオープンするとともに、同月に、「てしごと家(テシゴトヤ)新浦安店」(千葉県浦安市)及び「芋蔵(イモゾウ)新宿西口店」(東京都新宿区)をオープンいたしました。また、6月には、モデル・タレントの越智千恵子さんのレシピ本『越智千恵子のパンケーキCafe 88 huithuit』を現実の店舗として再現した「88 huithuit(ユイトユイト)アスナル金山店」(名古屋市中区)をオープンいたしました。加えて、同月に「芋蔵池袋東口店」(東京都豊島区)、7月に「芋蔵京都木屋町店」(京都市中京区)、8月に「ほっこり静岡呉服町店」、「二六丸(ニロクマル)静岡呉服町店」及び「88 huithuit静岡呉服町店」(静岡市葵区)、9月に「88 huithuit mozoワンダーシティ上小田井店」(名古屋市西区)、11月に「PELLICANO(ペリカーノ)」及び「爽鶏屋(ソウドリヤ)」(静岡市葵区)をオープンいたしました。

業態変更につきましては、平成25年3月に「名古屋丸八食堂(ナゴヤマルハチショクドウ)京都ヨドバシ店」(京都市下京区)を「薩摩はやと(サツマハヤト)」として、4月に「桜木ハイボール(サクラギハイボール)」(横浜市中区)を「Gappo(ガッポ)桜木町」、「金山鍋蔵(カナヤマナベゾウ)」(名古屋市熱田区)を「二六丸金山店」、10月に「絆笑(バンショウ)」(名古屋市中村区)を「88 huithuit泥江町店」、「猿Cafe栄広小路店」(名古屋市中区)を「88 huithuit栄広小路店」として、リニューアルオープンいたしました。

また、「うな匠(ウナショウ)千里中央店」及び「薩摩とりとん(サツマトリトン)」(大阪府豊中市)、「OTTIMO(オッティモ)」(名古屋市中村区)を閉店いたしました。

その結果、飲食事業における売上高は7,350百万円(前年同期比12.7%増)、営業利益は145百万円(同10.4倍)となりました。

② ブライダル事業

前連結会計年度にオープンいたしました新バンケット「LUCENT Mariage Tower(ルーセントマリアージュタワー)」が順調に稼働いたしました。その結果、ブライダル事業における売上高は744百万円(前年同期比95.6%増)、営業利益は58百万円(前年同期は営業損失2百万円)となりました。

③ 不動産事業

テナントビル「ダイヤモンドウェイ」や「G-SEVENS(ジーセブン)刈谷」などの賃貸収入に加え、ホールディングス体制への移行に伴い、グループ会社間の賃貸収入が増加いたしました。その結果、不動産事業における売上高は1,168百万円(前年同期比143.6%増)、営業利益は103百万円(同147.8%増)となりました。

④ その他の事業

広告代理業及び卸売業等のその他の事業における売上高は607百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益は43百万円(同40.8%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は8,346百万円（前連結会計年度末比1,399百万円増加）となり、負債は6,243百万円（同922百万円増加）、純資産は2,103百万円（同476百万円増加）となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ総額で845百万円増加し1,911百万円となりました。これは、現金及び預金が、公募による新株式の発行などにより688百万円増加し、売掛金が29百万円増加したことなどが主な要因であります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ545百万円増加し6,426百万円となりました。これは、新規出店やリニューアル等の設備投資によって、有形固定資産が523百万円増加、差入保証金が18百万円増加したことなどが主な要因であります。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ648百万円増加し2,730百万円となりました。これは、買掛金が159百万円、1年内返済予定の長期借入金が192百万円、未払金が237百万円それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ274百万円増加し3,512百万円となりました。これは、社債が104百万円、長期借入金が72百万円増加したことなどが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ476百万円増加し2,103百万円となりました。これは、公募による新株式の発行及び新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ299百万円増加したことなどが主な要因であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは、平成30年2月期での連結売上高200億円、経常利益15億円を目指し新規出店等に注力しており、今期におきましては、平成25年8月28日付で連結子会社化した株式会社SARUが運営する「猿Cafe」4店舗を含め、すでに16店舗を新規出店及び新規取得するとともに、新たにフランチャイズ店舗が7店舗増加いたしました。こうした状況のもと、新規出店費用が増加傾向にあり第3四半期において営業損失を計上しておりますが、売上高は増加して推移しており、今後の業績は繁忙期を含む第4四半期の業況に影響を受けますので、平成25年10月4日に公表いたしました通期の業績予想につきまして、現時点での変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間より、株式会社ジェイエイト及び持分法適用関連会社の株式会社SARUが新たに提出会社の連結子会社となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ22,179千円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	426,105	1,114,890
売掛金	297,258	326,619
商品及び製品	244	299
原材料及び貯蔵品	68,348	80,868
その他	291,876	404,773
貸倒引当金	△17,725	△16,210
流動資産合計	1,066,107	1,911,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,877,010	3,165,939
土地	1,364,881	1,428,664
その他（純額）	281,400	452,226
有形固定資産合計	4,523,292	5,046,831
無形固定資産	33,836	34,165
投資その他の資産		
投資有価証券	8,614	9,220
差入保証金	1,109,350	1,127,975
その他	205,901	211,300
貸倒引当金	—	△2,625
投資その他の資産合計	1,323,867	1,345,870
固定資産合計	5,880,995	6,426,867
繰延資産	—	8,069
資産合計	6,947,102	8,346,178

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	353,523	512,837
短期借入金	33,280	—
1年内償還予定の社債	—	26,000
1年内返済予定の長期借入金	848,960	1,041,019
未払金	575,333	812,769
未払法人税等	6,883	36,583
賞与引当金	—	10,512
その他	264,020	290,651
流動負債合計	2,082,000	2,730,374
固定負債		
社債	—	104,000
長期借入金	2,958,193	3,030,749
資産除去債務	56,105	61,127
その他	224,464	316,896
固定負債合計	3,238,762	3,512,772
負債合計	5,320,763	6,243,147
純資産の部		
株主資本		
資本金	769,031	1,068,969
資本剰余金	699,031	998,969
利益剰余金	240,175	128,460
自己株式	△76,000	△76,000
株主資本合計	1,632,238	2,120,398
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△5,900	△17,366
その他の包括利益累計額合計	△5,900	△17,366
純資産合計	1,626,338	2,103,031
負債純資産合計	6,947,102	8,346,178

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	7,269,818	8,392,550
売上原価	2,196,245	2,573,702
売上総利益	5,073,572	5,818,848
販売費及び一般管理費	5,094,061	5,939,940
営業損失(△)	△20,489	△121,092
営業外収益		
受取利息	308	1,340
協賛金収入	29,854	69,370
設備賃貸料	3,395	3,227
為替差益	—	15,274
その他	19,416	13,623
営業外収益合計	52,975	102,835
営業外費用		
支払利息	43,753	47,962
その他	13,518	15,748
営業外費用合計	57,271	63,710
経常損失(△)	△24,785	△81,967
特別利益		
固定資産売却益	579	—
特別利益合計	579	—
特別損失		
店舗閉鎖損失	—	8,302
貸倒引当金繰入額	1,401	—
特別損失合計	1,401	8,302
税金等調整前四半期純損失(△)	△25,606	△90,270
法人税等	△3,045	△14,822
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△22,561	△75,447
四半期純損失(△)	△22,561	△75,447

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△22,561	△75,447
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△274	△11,466
その他の包括利益合計	△274	△11,466
四半期包括利益	△22,835	△86,914
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△22,835	△86,914

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成25年6月25日付で、公募による新株式発行の払込みを受け、資本金が269,587千円、資本準備金が269,587千円増加しました。また、当第3四半期連結累計期間において新株予約権の行使により資本金が30,350千円、資本準備金30,350千円増加しました。その結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,068,969千円、資本準備金が998,969千円となっております。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	飲食	ブライダル	不動産	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	6,518,447	379,992	137,904	7,036,344	233,473	7,269,818	—	7,269,818
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,600	560	341,969	344,130	328,517	672,648	△672,648	—
計	6,520,047	380,553	479,874	7,380,475	561,991	7,942,466	△672,648	7,269,818
セグメント利益又は損失(△)	13,979	△2,869	41,635	52,745	30,649	83,394	△103,883	△20,489

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業、有料職業紹介業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去29,908千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△133,791千円となります。全社費用の主なものは、当社の本社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	飲食	ブライダル	不動産	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	7,275,811	744,425	142,254	8,162,492	230,057	8,392,550	—	8,392,550
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	74,307	—	1,026,690	1,100,997	377,124	1,478,122	△1,478,122	—
計	7,350,119	744,425	1,168,945	9,263,490	607,181	9,870,672	△1,478,122	8,392,550
セグメント利益	145,355	58,102	103,163	306,621	43,142	349,764	△470,857	△121,092

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業、有料職業紹介業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 △470,857千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更等に記載のとおり、当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は、「飲食事業」が21,532千円、「ブライダル事業」が36千円、「不動産事業」が609千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、株式会社SARUの全株式を取得し子会社化しております。当第3四半期連結累計期間において、当該事象によるのれんの増加額は2,081千円であります。